

お忙しくても、約 2 分間で読めます

ハートフル・ワード

(心からの言葉)

山内公認会計士事務所

TEL 098-868-6895

FAX 098-863-1495

経営者への活きた言葉

大企業は中小企業に配慮する丹羽 宇一郎（伊藤忠商事会長）

1. 大企業の経営者が、労働者の格差是正のためにできることはたくさんある。そもそも、多くの経営者が国の方針の変化に期待しているところがあるが、自分の頭で考えてすぐに行動すべきだ。まず、大企業には非正規社員を正社員として雇う余力がある。しかし、経営の苦しい中小企業はそうはいかない。大企業に働く人や経営者はいわば、社会の強者。強い人は弱い人のことがわからない。自分が見える世の中がすべてだと思ってしまう。
2. 中小企業の従業員は、社長から「今週は忙しい。頼むから週末も出勤してくれ」と言われれば断ることはできない。10人や20人の企業で、自分の意見を通すことは難しいからだ。無給の休日出勤や残業がまかり通っている。その結果、実質的に最低賃金を下回っている中小企業も少なくないはずだ。では、それを強いる中小企業の経営者が鬼のような人物なのか。決してそんなことはない。そうしなければ、企業として存続できないから苦渋の決断をしていることがほとんどだろう。にもかかわらず、強者の大企業が中小企業に発注する際、「100万円くらい、いいだろう」と安易に、コストカットを要求する。
3. こうした現状では、中小企業も非正規社員を正社員として雇え、無給の残業や休日出勤をすべてなくせ、と言っても難しいだろう。少なくとも、大企業には、中小企業への発注額を下げ、中小企業におカネが回るようにするなど、できることから始めてほしい。そのためにも、経営者は意識を変えなければならない。

(参考:「週刊ダイヤモンド」2008年3月8日号)

経営者のための理念哲学

絶対不変の四つの真理

1. 目まぐるしい変化の時代である。永久に変わらないものなどない、と思いがちである。だが、絶対不変の真理は厳然としてある。その第一は、「人は必ず死ぬ」ということである。第二は、「自分の人生は自分しか生きられない」ということである。幼子が病気で苦しんでいる。親は自分が代わってやりたいと思う。だが、代わることはできない。
2. 第三は、「人生は一回限りである」ということ。人生にリハーサルはない。また、再演することはできない。第四は、「この悠久の宇宙において自分という存在はたった一人しかいない」ということである。過去にも未来にも自分と同じ人間は生まれてこないし、これからもうまれてこない。

(参考:「致知」:2008年6月号)

人事・労務について

再チャレンジできる組織

アルビン・トフラー（未来学者）

1. 現在の経済・金融社会を規律していくには、イノベータータイプ（技術革新的）な組織をつくり出さねばならない。そのカギは、リスクと報酬の正しい比率を見いだすことだ。好例がシリコンバレーにある。そこには働く若者たちがいいアイデアを考えついたとする。でも、そのアイデアがうまくいかなかった場合、彼らにもう一回チャンスが与えられる。つまり、責任感があって優秀な若者だとほかの人が判断すれば、再び開発資金を獲得することができる。それを米国では「カムバック」と呼んでいる。
2. 一見まったくばかげたような新しいアイデア、クレイジーなアイデアを提案した若者が出てきても、温かく受け止める姿勢が企業を成長させることにつながる。

(参考:「週刊東洋経済」2008年3月1日号)

古典に学ぶ

君に仕えて忠ならざるは

「君に事えて忠ならざるは孝に非ざるなり。戦陣に勇なきは孝に非ざるなり」

(訳) 激しい社会で誠を以て本分を尽くそうとしない者や、御身ご大切だけを考えているような臆病人間は孝とはいえないし、企業にとっても邪魔物でしかないのである。

(参考:佐藤一斎「言志四録」): PHP文庫